

六月の花といえばアジサイですね。雨にうたれても、カタツムリが乗っかっている、絵になります。

そもそもなぜアジサイというかというと、あずさあい、すなわち集まった藍色という意味らしいです。たしかに言われてみればそうですが。

でも、最近は品種改良が進んで、藍色だけでなく、水色、ピンク色、白、紫色、などたくさん美しい花の色が生まれています。色だけではありません。形もさまざまです。名前はその品種を作り出した人がつけることができるので、今やどんなおもしろい名前の昔なかったアジサイが世に送り出されています。例えば、「ダンスパーティー」という名前のアジサイは風が吹くとまるでピンクの衣装をまとったおどり子がおどっているように見えるのです。

じつは、アジサイにはおもしろい名前の話があります。動植物には学名というものがつけられます。江戸時代のおわりごろ日本にやってきたドイツの医者・博物学者シーボルトという人は、日本の奥さんだったお滝さんという人の名前をアジサイの学名にしたかったらしいです。それで、ヨーロッパではアジサイはオタクサとよばれそうになったのですが、実はすでに新種として登録されていたものとシーボルトが日本から持ち込んだものが同じだったとわかり、今ではオタクサという名前は消えてしまいました。

でも、日本で一番有名な植物学者、牧野富太郎はこれを知り、そのあとで自分が発見したササに奥さんの名前をつけました。それが今でも図鑑にのっている「スエコザサ」というササです。みなさんも将来新種を見つけて、自分の名前や大好きな人の名前をつけてみたいかかな？

音読サイン↓

① 何の話でしょう？

② アジサイってどういう意味があるらしいのでしょうか？

③ シーボルトはどこの人でしたか？

④ シーボルトの職業はなんですか？

⑤ シーボルトの日本の奥さんの名前は？

⑥ シーボルトは奥さんをどう呼んでいたのでしょうか？カタカナ四文字で答えましょう。

⑦ なぜちゃんとお滝さんと呼ばなかったのでしょうか？あなたの考えを書きましょう。

⑧ 牧野富太郎はどういう気持ちで奥さんの名前をつけたと思いますか？

（ ） 憎しみ （ ） 感謝 （ ） 怒り

⑨ あっているものに○をつけましょう。

（ ） 今もアジサイの学名はオタクサだ。

（ ） 命名もひとつの愛の現れだ。

（ ） スエコは牧野富太郎のおかあさんだ。

⑩ 上の話の感想を五行でまとめましょう。

できればは？

